

報告(2) 家庭における育児力を高めるために必要な支援について
「ハローファミリーカードの活用について」

1 経緯

近年、孤立している家庭が増えている現状がある。

- ・ 夫婦以外の家族の支援がない家庭
- ・ 地域社会とのつながりが薄い家庭
- ・ 必要な時に助けをもとめられない家庭 など

そのような家庭を支援するために、関係機関が同じ目線で親子と関わり、支援がつながるシステムが必要である。⇒ハローファミリーカードの導入

2 目的

- ・ 医療機関や保健機関のスタッフが子育て支援に取り組む姿勢の共有化
 - ・ 些細なことでも相談してよいという気持ちになるための支援ツール
 - ・ 医療機関から保健機関につなげることの同意を得るための連携ツール
- ⇒母親が困ったとき、心配なときに SOS の出しやすい環境づくり

3 現在の取り組み

- ハローファミリーカード協力機関において、ハローファミリーカードを配布。
- 第2回子育て支援機関（ハローファミリーカード協力機関）連携会議を開催。
会議で出た意見や確認事項は以下のとおり。

<意見>

- ・ 若年の母親や、精神疾患をもつ母親、育児不安がある母親に渡している。
- ・ 若い母より高齢な母のほうが出産・育児に対する不安が強い。
- ・ コミュニケーションをとりにくい母親に配っている。
- ・ 独自のアンケートをつくり、支援が必要な母親を把握している。
- ・ 気になる母親には、退院時に個別で指導している。
- ・ カードを渡そうとしたら、すでに持っている母親がいた。
- ・ カードを持っている母親がいたため、気をつけて見守っていこうと思った。
- ・ 医師がカードを渡そうとしているが、忙しくて難しい。
- ・ 受付事務員が渡そうと思うが、年齢が若いため母に受け入れてもらえるか心配。
- ・ カードは看護師が渡している。
- ・ カードを渡すことで、母に警戒されるのではないか心配。
- ・ 警戒する母親には、さらっと声をかけてカードを渡すのはどうか。
- ・ 院内に子育て支援の意識が低い。地域の資源を知り活用していきたい。
- ・ できるだけ母の話を聴いている。話を聴いてあげると母の表情がとてよくなる。
- ・ 母親が孤立しないように、母親同士のつながりも大事にしていきたい。
- ・ 離乳食について保健センターへの相談につながった。
- ・ 医療機関でカードをもらった母親から、保健センターに相談電話が入った。

<確認事項>

ハローファミリーカードを導入して、実際にカードを見て **SOS** を出すことのできた母親がいる。またカードは、各機関の連携や子育て支援に関するスタッフの意識向上にも役立っている。

4 今後の取り組み

各機関において、子育て支援の視点を持って親子と関わり、ハローファミリーカードの活用ができるよう継続的に会議を行い、小牧の子育て支援のネットワークを作っていきたい。